

## 調査結果のまとめ

### 1 市や区に対する愛着や定住意識について

#### (1) 相模原市に対する愛着

相模原市に対して愛着や親しみを感じているかたずねたところ、「感じている」(44.6%)と「やや感じている」(29.0%)の2つを合わせた 感じている(計) (73.6%)は7割を超えている。「どちらともいえない」(18.3%)は2割近くで、「あまり感じていない」(5.9%)と「まったく感じていない」(1.6%)の2つを合わせた 感じていない(計) (7.5%)は1割未満となっている。

#### (1-1) 相模原市に愛着や親しみを感じる場所

相模原市に対して愛着や親しみを「感じている」または「やや感じている」と答えた方に、どのような場所に愛着や親しみを感じるかたずねたところ、「自然環境(山、森、川、緑地等)」(46.7%)が5割近くで最も高く、次いで、「閑静な生活環境」(31.8%)、「近隣の人間関係」(28.3%)、「友人や親戚との付き合い」(23.8%)、「公園、広場等のオープンスペース」(22.2%)と続いている。

#### (2) 居住している区に対する愛着

お住まいの区に対して愛着や親しみを感じているかたずねたところ、「感じている」(34.8%)と「やや感じている」(31.3%)の2つを合わせた 感じている(計) (66.1%)は6割半ばとなっている。「どちらともいえない」(19.6%)は2割で、「あまり感じていない」(7.7%)と「まったく感じていない」(1.6%)の2つを合わせた 感じていない(計) (9.3%)は約1割となっている。

#### (2-1) お住まいの区に愛着や親しみを感じる場所

お住まいの区に対して愛着や親しみを「感じている」または「やや感じている」と答えた方に、どのような場所に愛着や親しみを感じるかたずねたところ、「閑静な生活環境」(35.1%)と「近隣の人間関係」(34.7%)がともに3割半ばで高く、次いで、「自然環境(山、森、川、緑地等)」(33.9%)、「友人や親戚との付き合い」(22.3%)、「公園、広場等のオープンスペース」(19.7%)、「駅周辺などのまちのにぎわい」(18.1%)と続いている。

#### (3) 定住意向

これからも相模原市に住みたいかたずねたところ、「住みたいと思う」(72.5%)が7割を超えて高くなっている。一方、「住みたくないと思う」(4.3%)はわずかとなっている。

#### (3-1) 定住したい理由

これからも相模原市に「住みたいと思う」と答えた方に、どのような理由からかたずねたところ、「長年住み慣れているから」(55.2%)が5割半ばで最も高く、次いで、「自分の家や土地だから」(47.1%)、「買い物に便利だから」(40.7%)、「自然環境がよいから」(38.5%)、「近くに親戚や友人がいるから」(27.8%)と続いている。

(3 - 2) 転出したい理由

これからも相模原市に「住みたくないと思う」と答えた方に、どのような理由からかたずねたところ、「通勤・通学に不便だから」(32.4%)が3割を超えて最も高く、次いで、「買い物に不便だから」と「まちの雰囲気が嫌いだから」(ともに22.1%)、「自分が生まれ育ったところではないから」(20.6%)、「公共施設が整っていないから」(19.1%)と続いている。

(4) 生活環境の評価

地域の生活環境について、日ごろどのように感じているか、16項目に分けて聞いたところ、良い評価は、(1)日当たりや風通し(76.6%)が8割近くで最も高く、次いで、(7)台所・風呂からの排水処理(75.7%)、(15)自然や緑(72.1%)、(9)日常の買い物(69.8%)、(4)雨水の排水(69.7%)と続いている。

一方、悪い評価は、(11)公共施設への交通の便(24.6%)が2割半ばで最も高く、次いで、(2)車の騒音・振動・排ガス(20.5%)、(5)交通安全(20.0%)、(12)公園・憩いの場・子どもの遊び場(18.9%)、(10)通勤・通学の便(18.3%)と続いている。

(5) 市外の人に居住地として相模原市を勧めたいと思うか

市外の人に居住地として相模原市を勧めたいと思うかたずねたところ、「勧めたいと思う」(20.3%)と「まあ勧めたいと思う」(30.9%)の2つを合わせた勧めたい(計)(51.2%)は5割を超えている。「どちらともいえない」(34.6%)は3割半ばで、「あまり勧めたいと思わない」(7.2%)と「勧めたいと思わない」(3.6%)の2つを合わせた勧めたくない(計)(10.8%)は約1割となっている。

## 2 相模原市のイメージについて

(1) 相模原市のイメージ

「相模原」はどのようなイメージかたずねたところ、「自然環境が良い」(65.7%)が6割半ばで最も高く、次いで、「買い物に便利」(38.7%)、「公害が少ない」(29.6%)、「通勤・通学に便利」(24.4%)、「公共施設が整っている」(20.9%)と続いている。

(2) 市のイメージアップを図るPR活動やイベントなどの情報、告知を見た経験

市のイメージアップを図るPR活動やイベントなどの情報、告知を見た経験があるかたずねたところ、「ある」(19.8%)は2割、「ない」(79.1%)が約8割となっている。

(2 - 1) PR活動やイベントなどの情報や告知等による市のイメージアップ

市のPR活動やイベントなどの情報、告知を見た経験が「ある」と答えた方に、市のイメージアップにつながったと思うかたずねたところ、「つながった」(29.5%)は3割、「つながらなかった」(14.9%)が1割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(54.9%)は5割半ばとなっている。

### 3 淵野辺公園拡張整備について

#### (1) 淵野辺公園の利用頻度

普段、淵野辺公園にどれぐらいの頻度で行くかたずねたところ、「ほぼ毎日」、「週に2～3回程度」、「週に1回程度」の3つを合わせた よく利用する(計) (3.2%)と「月に1回程度」、「2～3ヶ月に1回程度」の2つを合わせた たまに利用する(計) (8.6%)はともに1割未満となっている。「半年に1回程度」と「1年に1回程度」の2つを合わせた あまり利用しない(計) (34.8%)は3割半ばとなっている。一方、「利用したことがない」(52.0%)は5割を超えている。

#### (1-1) 淵野辺公園内の施設の利用状況

普段、淵野辺公園を「利用している」と答えた方に、淵野辺公園のどのような施設を利用しているかたずねたところ、「芝生広場」(36.2%)が3割半ばで最も高く、次いで、「銀河アリーナ内のアイススケート場」(23.1%)、「樹林広場」(19.7%)、「ジョギングコース」(18.9%)、「サーティーフォー相模原球場」(12.7%)と続いている。

#### (2) 淵野辺公園拡張区域(Yゾーン)に整備してほしい施設

淵野辺公園拡張区域(Yゾーン)には、具体的にどのような施設を希望するかたずねたところ、累計でみると、「緑が多く自然にあふれ、森林浴や散策が楽しめる場」(38.3%)が4割近くで最も高く、次いで、「子どもから大人まで幅広い世代が屋外スポーツなどを楽しめる場」(21.8%)、「芝生などが広がり、ゆっくり憩える場(芝生広場)」(17.2%)と続いている。

### 4 土木施設へのネーミングライツ導入について

#### (1) 土木施設へのネーミングライツ導入事業について

土木施設へのネーミングライツ導入事業についてたずねたところ、「賛成」(26.7%)と「どちらかといえば賛成」(31.5%)の2つを合わせた 賛成(計) (58.2%)は6割近くとなっている。「どちらでもない」(28.9%)は3割近くで、「どちらかといえば反対」(6.9%)と「反対」(2.6%)の2つを合わせた 反対(計) (9.5%)は1割となっている。

#### (1-1) 賛成する理由

土木施設へのネーミングライツ導入事業について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「市の収入が増加し維持管理が軽減できる」(69.9%)が7割で最も高く、次いで、「企業貢献による地域の活性化につながる」(43.0%)、「美化活動等により施設のイメージが向上する」(24.9%)、「施設の知名度が向上する」(13.9%)、「施設の親しみやすさにつながる」(13.2%)と続いている。

( 1 - 2 ) 反対する理由

土木施設へのネーミングライツ導入事業について「どちらかといえば反対」または「反対」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「施設の公共性が損なわれる」(47.4%)が5割近くで最も高く、次いで、「地域にふさわしい名称ではなくなってしまう」(43.4%)、「特定企業への利益供与」(32.2%)、「交通への支障が懸念される」(13.2%)、「企業名による施設のイメージの低下につながる」(11.8%)と続いている。

( 2 ) ネーミングライツ導入に適する施設

ネーミングライツ導入に適する施設を、10項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の2つを合わせた 思う(計) は、河川親水広場(51.1%)が5割を超えて最も高く、次いで、ポケットパーク(49.8%)、河川遊歩道(49.0%)、駅前広場(48.8%)、ペDESTリアンデッキ(48.6%)と続いている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた 思わない(計) は、道路(25.8%)が2割半ばで最も高く、次いで、立体交差(24.0%)、トンネル(23.7%)、歩道橋(22.4%)、橋(19.7%)と続いている。

5 歩道橋のあり方について

( 1 ) 通学路として指定されていない利用者の少ない歩道橋の撤去について

通学路として指定されておらず、利用者が少なくなった歩道橋を撤去することについてたずねたところ、「賛成」(39.0%)と「どちらかといえば賛成」(32.8%)の2つを合わせた 賛成(計) (71.8%)は7割を超えている。「どちらでもない」(13.4%)は1割を超え、「どちらかといえば反対」(9.3%)と「反対」(2.8%)の2つを合わせた 反対(計) (12.1%)は1割を超えている。

( 1 - 1 ) 賛成する理由

通学路として指定されていない利用者の少ない歩道橋の撤去について「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「老朽化が激しく景観が良くない」(44.4%)が4割半ばで最も高く、次いで、「車いすの利用ができない」(37.7%)、「一日の利用者数が少ない」(35.4%)、「支柱があることで、歩道が狭くて通行しづらい」(27.4%)、「支柱があることで、車からの見通しが悪く安全性に問題がある」(20.0%)と続いている。

( 1 - 2 ) 反対する理由

通学路として指定されていない利用者の少ない歩道橋の撤去について「どちらかといえば反対」または「反対」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「歩道橋の方が安全に横断できる」(72.3%)が7割を超えて最も高く、次いで、「車の交通量が多い場合、なかなか横断できない」(48.2%)、「車の円滑な走行が妨げられる」(31.4%)、「横断待ちの人により、歩道が通行しにくくなる」(4.2%)と続いている。

## 6 空き家問題について

### (1) 問題のある空き家の有無

身近に問題のある空き家はあるかたずねたところ、「問題のある空き家がある」(11.5%)は1割を超えている。「空き家はあるが、問題がない」(28.7%)は3割近く、「空き家はない」(57.1%)が6割近くとなっている。

#### (1-1) 空き家の具体的な問題

身近に「問題のある空き家がある」と答えた方に、どのような問題のある空き家かたずねたところ、「老朽化などにより建物が倒壊、資材が飛散する危険などがある」(30.8%)が約3割で最も高く、次いで、「樹木や雑草が敷地からはみ出すほど茂っている」(21.4%)、「枯れ枝やごみなどが放置され、放火されるおそれがある」(12.1%)、「ごみなどが放置又は不法投棄され、敷地内に山積みされている」(10.4%)と続いている。

#### (1-2) 問題のある空き家に対してとった行動

身近に「問題のある空き家がある」と答えた方に、問題のある空き家に対してどのような行動をとったかたずねたところ、「何もしていない」(74.2%)が7割半ばで最も高くなっている。行動をとった人の中では、「自治会や民生委員・児童委員などに相談した」(6.0%)が最も高く、次いで、「空き家の所有者等に連絡した」(4.4%)と続いている。

### (2) 所有する空き家の有無

あなたやご親族は空き家(問題のある、なしに関わらず)を所有しているかたずねたところ、「複数所有している」(0.5%)と「1棟所有している」(4.3%)の2つを合わせた所有している(計) (4.8%)は1割未満となっている。一方、「所有していない」(91.7%)が9割を超えている。

#### (2-1) 空き家の今後の予定

空き家を「複数所有している」または「1棟所有している」と答えた方に、空き家の今後の予定をたずねたところ、「特に予定はない」(51.9%)が5割を超えて最も高くなっている。予定がある人の中では、「売却や賃貸を予定している」(23.4%)が2割を超えて最も高く、次いで、「取り壊しを予定している」(16.9%)と続いている。

#### (2-2) 所有する空き家で困っていることや不安を感じること

空き家を「複数所有している」または「1棟所有している」と答えた方に、所有する空き家で困っていることや不安を感じることをたずねたところ、「特に困っていることや不安を感じることはない」(28.6%)が3割近くで最も高くなっている。また、困っていることや不安を感じる人の中では、「遠方に居住、時間がない、高齢であるなどの理由で自身での管理が難しい」(23.4%)が2割を超えて最も高く、次いで、「建物の修繕や管理に要する経費負担が大きい」(18.2%)、「空き家の売却や賃貸する相手方が決まっていない」(16.9%)と続いている。

## 7 自転車の安全利用について

### (1) 自転車保険の加入状況

自転車運転中の加害事故の被害者に対する賠償に備えた保険に加入しているかたずねたところ、「加入している」(25.0%)は2割半ばとなっている。「自転車を持っているが、加入していない」(30.2%)は3割、「自転車を持っているが、加入しているか分からない」(9.4%)は約1割、「自転車を持っていない」(33.6%)が3割を超えている。

また、「自転車を持っている方」(「自転車を持っていない」+ 無回答者を除く)でみると、「加入している」(38.7%)は4割近くとなっている。「自転車を持っているが、加入していない」(46.8%)が5割近く、「自転車を持っているが、加入しているか分からない」(14.5%)は1割半ばとなっている。

### (1-1) 加入している保険の種類

自転車保険に「加入している」と答えた方に、加入している保険をたずねたところ、「個人賠償(特約も含む)」(72.8%)が7割を超え、「TSマーク付帯保険」(31.7%)は3割を超えている。

### (1-2) 加入していない理由

自転車保険に「自転車を持っているが、加入していない」と答えた方に、加入していない理由をたずねたところ、「自転車にほとんど乗らないから」(39.4%)が約4割で最も高く、次いで、「加入手続きの方法が分からない」(30.2%)、「事故の加害者になることはほとんどないと思うから」(21.9%)、「費用が掛かるから」(21.3%)と続いている。

### (2) 自転車事故の賠償に備える特約を付帯できる損害保険の認知度

自動車保険や火災保険に、自転車事故を起こした場合の特約保険を付帯できるものがあることを知っているかたずねたところ、「知っている」(46.6%)、「知らない」(48.5%)はともに5割近くとなっている。

### (3) 自転車に乗るときのヘルメットの着用状況

自転車に乗るときにヘルメットを着用しているかたずねたところ、「着用している」(1.3%)はわずかとなっており、「着用していない」(58.0%)が6割近くとなっている。「自転車には乗らない」(36.3%)は3割半ばとなっている。

また、「自転車に乗っている方」(「自転車には乗らない」+ 無回答者を除く)でみると、「着用している」(2.1%)はわずかとなっており、「着用していない」(97.9%)が全数近くとなっている。

## (3-1) ヘルメットを着用していない理由

自転車に乗るときにヘルメットを「着用していない」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「周りの人も着用していないから」(47.1%)が5割近くで最も高く、次いで、「暑かったり、重かったりするから」(40.2%)、「着用後に髪型を整えるのが面倒だから」(21.6%)、「着用したいヘルメットがないから」(19.8%)、「事故に遭うことはほとんどないと思うから」(19.0%)と続いている。

## (4) 13歳未満の子どもに対するヘルメットの着用状況

13歳未満のお子さんにヘルメットを着用させているかたずねたところ、「着用させている」(8.3%)、「着用させていない」(7.9%)、「自転車に乗らせていない」(3.5%)はいずれも1割未満となっている。

また、「13歳未満の子どもがいて、自転車に乗らせている方」(「自転車に乗らせていない」+「13歳未満の子どもはいない」+無回答者を除く)でみると、「着用させている」(51.2%)が5割を超え、「着用させていない」(48.8%)は5割近くとなっている。

## (4-1) ヘルメットを着用させていない理由

13歳未満のお子さんにヘルメットを「着用させていない」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「周りの人も着用していないから」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで、「暑かったり、重かったりするから」(26.4%)、「費用が掛かるから」(10.4%)、「着用したいヘルメットがないから」(9.6%)、「ヘルメットで体を守れるとは思えないから」(7.2%)と続いている。

## (5) 保護者が幼児・児童にヘルメットを着用させる道路交通法の努力義務の認知度

道路交通法で、幼児や児童を自転車に乗車させるときは、保護者はヘルメットを着用させるよう努めなければならないことを知っているかたずねたところ、「知っている」(52.9%)が5割を超え、「知らない」(35.9%)は3割半ばとなっている。

## 8 図書館サービスについて

## (1) 相模原市の図書館の利用状況

この1年間に相模原市の図書館に来館したり、図書館のサービスを利用したかたずねたところ、「月1回以上利用した」(8.9%)と「年に数回利用した」(16.5%)の2つを合わせた利用した(計) (25.4%)は2割半ばとなっている。一方、「利用したことがない」(39.9%)が4割で、これに「以前に利用したことがあるが、今は利用していない」(33.2%)を合わせた利用しなかった(計) (73.1%)は7割を超えている。

## (1-1) 相模原市の図書館を利用しない理由

この1年間に相模原市の図書館を「利用したことがない」または「以前に利用したことがあるが、今は利用していない」と答えた方に、利用しない理由をたずねたところ、「本は自分で買って読む主義だから」(28.4%)が3割近くで最も高く、次いで、「図書館までの交通が不便だから」(23.3%)、「借りた本を返すのが面倒だから」(22.8%)、「インターネットなどで用が足りるから」(20.1%)、「本を読まないから」(18.4%)と続いている。

(2) 図書館に必要だと思うサービス

図書館にどのようなサービスが必要と考えるかたずねたところ、「本の品揃えの充実」(40.7%)が約4割で最も高く、次いで、「快適に読書や勉強ができる空間の増設」(29.8%)、「自分のパソコンで調べものや勉強をするためのW - F 機能を利用できる場の設置」(19.7%)、「雑誌の品揃えの充実」と「子どもが本に親しめる場所や子ども向けの本の充実」(ともに17.7%)と続いている。

(3) これからの図書館のあり方

これからの図書館がどうあってほしいと思うかたずねたところ、「ゆっくりと余暇を過ごすことのできる場」(38.6%)が4割近くで最も高く、次いで、「趣味や娯楽に役立つ情報を得る場」(34.5%)、「子どもの成長を支援する場」(28.9%)、「学業のための資料や情報を得る場」(25.3%)、「仕事上の情報や専門知識を得る場」(22.2%)と続いている。

(4) 図書館はどのような場所や環境にあると良いか

図書館はどのような場所や環境にあると良いと思うかたずねたところ、「市街地で交通の便が良い場所」(50.3%)が5割で最も高く、次いで、「図書館内にカフェや飲食ができる場所があること」(41.6%)、「商業ビルやその他の公共施設と併設されていること」(27.5%)、「郊外で広い駐車場がある場所」(26.3%)、「博物館や美術館などがある文化ゾーンにあること」(18.7%)と続いている。

(4-1) 新しい図書館のサービスは有料でも利用するか

図書館の場所や環境について「図書館内にカフェや飲食ができる場所があること」「図書館内に友人や家族と語りあいができる場所があること」「図書館内に個人で自由に使えるオフィス的な空間があること」「図書館内に団体に自由に使える空間があること」と答えた方に、希望するものは有料でも使用するかたずねたところ、「利用する」(74.0%)が7割半ば、「利用しない」(10.6%)は約1割となっている。

## 9 スポーツの観戦や支援について

(1) スポーツの試合の観戦状況

この1年のうちに、スポーツの試合を直接会場で観戦したかたずねたところ、観戦した人の中では、「市外の会場でプロ等(実業団、社会人等を含む)の試合を観戦した」(9.7%)が1割で最も高く、次いで、「市内の会場で小学生、中学生の試合を観戦した」(7.4%)と続いている。また、「観戦したかったが機会がなかった」(34.3%)と「関心がない」(35.7%)はともに3割半ばとなっている。



## (2) 「相模原市ホームタウンチーム」に対する関心

「相模原市ホームタウンチーム」にどの程度関心があるかを、4チームに分けて聞いたところ、「チームを応援しているが、観戦に行ったことはない」は、SC相模原(12.1%)が1割を超えて最も高く、「名前を知っている程度」でも、SC相模原(50.5%)が約5割で最も高くなっている。一方、「知らない」は、三菱重工相模原ダイナボアーズ(62.3%)、ノジマ相模原ライズ(60.9%)、ノジマステラ神奈川相模原(59.5%)がいずれも6割前後と高くなっている。

## 10 情報化推進施策について

## (1) 行政サービスの提供にかかる時間の満足度

行政サービスの提供にかかる時間についてたずねたところ、「十分」(5.2%)と「ほぼ十分」(6.0%)の2つを合わせた十分(計)(11.2%)は1割を超えている。「ふつう」(45.2%)は4割半ばで、「やや不十分」(12.0%)と「不十分」(9.3%)の2つを合わせた不十分(計)(21.3%)は2割を超えている。

## (2) 生活に必要な情報の取得しやすさの満足度

生活に必要な情報の取得しやすさについてたずねたところ、「十分」(3.3%)と「ほぼ十分」(6.9%)の2つを合わせた十分(計)(10.2%)は1割となっている。「ふつう」(41.1%)は4割を超え、「やや不十分」(13.2%)と「不十分」(11.8%)の2つを合わせた不十分(計)(25.0%)は2割半ばとなっている。

## (3) 地域に密着した情報の発信や共有についての満足度

地域に密着した情報(子育て、飲食店、イベントなど)の発信や共有についてたずねたところ、「十分」(2.3%)と「ほぼ十分」(5.0%)の2つを合わせた十分(計)(7.3%)は1割未満となっている。「ふつう」(40.4%)は4割で、「やや不十分」(14.0%)と「不十分」(12.2%)の2つを合わせた不十分(計)(26.2%)は2割半ばとなっている。

## (4) 地域における防犯・防災情報の発信・共有についての満足度

地域における防犯・防災情報の発信・共有についてたずねたところ、「十分」(2.7%)と「ほぼ十分」(8.0%)の2つを合わせた十分(計)(10.7%)は約1割となっている。「ふつう」(40.6%)は約4割で、「やや不十分」(13.1%)と「不十分」(15.9%)の2つを合わせた不十分(計)(29.0%)は約3割となっている。